

令和7年度
三浦市青少年派遣団
活動報告書

三浦市青少年姉妹都市国際交流事業



三浦市青少年姉妹都市国際交流実行委員会

三浦市教育委員会

目的

オーストラリア及びウォーナンブル市の教育・文化・生活習慣等の理解
青少年同士及びウォーナンブル市民との交流
国際的視野を持つ青少年の育成
次代の市民、地域の交流の促進

目次

この報告書はウォーナンブル市との”架け橋”となる三浦市青少年派遣団の活動記録です

目的	1
国際姉妹都市オーストラリア・ウォーナンブル市との交流	2
派遣団	3
引率者	4
活動日誌	5~16
報告活動	17
研究課題	18~51
On the journey	52
思い出	53~67

派遣団

引率者 2名
派遣生 8名
(高校生 4名 中学生 4名)

派遣先

オーストラリア
ビクトリア州
ウォーナンブル市

派遣期間

令和7年
8月11日(月)~
8月20日(水)

活動概要

事前研修

.....
6月11日(水)
事務局による概要説明
6月18日(水)
事務局による研究課題指導
6月25日(水)
ALTによる英語指導
7月9日(水)
ALTによる英語指導
7月23日(水)
事務局による渡航指導

交流活動

.....
派遣事業
8月11日(月)~20日(水)
ウォーナンブル市内の家庭
に滞在し、ブラウワーカレッジ
等の学校生活、市長表敬訪問、
メルボルン市視察

報告活動

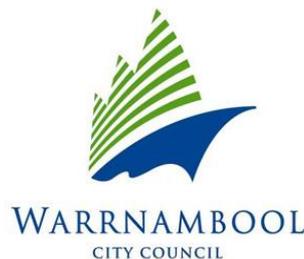
.....
7月28日(月)
壮行会において市長、実行委員
会及び保護者へ出発を報告
8月25日(月)
市長、実行委員会及び保護者へ
渡航中の活動概要を報告
8月28日(木)
三浦ロータリークラブへ渡航
中の活動概要を報告
11月16日(日)
三浦市民まつりにおいて活動
内容を報告

国際姉妹都市オーストラリア・ウォーナンブール市との交流

ウォーナンブール市はオーストラリアの南東部に位置する穏やかな気候と自然豊かな台地に恵まれた美しい都市です。

メルボルンへ約 300km 続く切り立った海岸線と奇岩で知られるグレートオーシャンロードや、野生のクジラを観察できるホエールウォッチングには多くの観光客が訪れます。

また、広大な牧草地帯に続く放牧風景はオーストラリアの大自然をそのまま感じることが出来ます。



市内には、古き時代のハーバービレッジを再現したフラッグスタッフヒルや、野生のコアラやカンガルーなどが生息する自然公園のタワーヒルなど人と自然が調和し共生している街です。

昭和 56 年（1981 年）4 月、ウォーナンブール市長をはじめとする一行が、交流を目的として本市を訪れたのが始まりでした。

その後、昭和 58 年（1983 年）、ウォーナンブール市議会議員が三浦市を訪

れたことをきっかけに、姉妹都市提携を前提とした交流が始まりました。市民訪問団による相互訪問を含む約 10 年間の準備の後、平成 4 年（1992 年）7 月 6 日姉妹都市の盟約を結ぶに至りました。

締結後は、青少年の相互派遣や留学生の受入れ等の教育の交流、市民訪問団による相互交流や行政間交流、有志による芸術交流も行われています。

平成 24 年（2012 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて姉妹都市提携 20 周年を記念し様々な交流が行われ、5 月に三浦市国際交流協会訪問団、8 月に三浦市長がウォーナンブール市を訪れ、記念行事等に出席し、平成 25 年（2013 年）10 月には、ウォーナンブール市長を始めとする 11 名の訪問団を三浦市へお招きし、記念事業を実施しました。

また、平成 27 年（2015 年）4 月にウォーナンブール市民訪問団が三浦市に滞在し、ホームステイや日本文化体験を通して、これまで育んできた両市の絆をさらに深めました。

そして、平成 30 年（2018 年）5 月に三浦市国際交流協会訪問団が、25 周年を記念しウォーナンブール市を訪れました。

三浦市青少年派遣団の活動は、令和 2 年度（2020 年度）以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延より休止していましたが、令和 4 年（2022 年度）10 月、姉妹都市提携 30 周年を記念し、新型コロナウイルスの感染対策を踏まえオンラインによる式典が実施され、令和 6 年度（2024 年度）から派遣事業を再開しました。

派遣団

<紹介>

令和7年度（2025年度）三浦市青少年派遣団ですが、引率者は、三崎小学校の山岸光教諭、三浦市教育部青少年教育課の玉田美穂主事の2名

派遣生は、高校2年生の石田楓奈さん、石橋陽花里さん、長嶋琉央さん、山森史稀さんの4名、中学3年生の鈴木詩季さん、田中二虹さん、中学2年生の内藤己陽さん、星野仁志さんの4名の計8名

<活動>

5月に実施した試験を経て選抜された派遣生は、6月から事前研修を開始し、派遣目的等の理解や研究課題への取組のほか、ALT（三浦市国際交流推進英語非常勤講師）による語学研修に参加しました。そして、7月28日に三浦市役所にて開催された壮行会において活動計画を報告し、8月11日にオーストラリアへ向けて出発しました。

壮行会（三浦市役所）



派遣生の研究課題のテーマは、日常的なものから教育にかかわるものまで幅広い内容を選択しております。

オーストラリアと日本のサービスの違いについて
日本とオーストラリアの教育方法の違いについて
コミュニケーションにおける日本とオーストラリアの違い
異文化理解に必要なこと
日本とオーストラリアの星座の違いについて
オーストラリアと日本の休日の違いについて
日本とオーストラリアの学校生活の違いについて
日本とオーストラリアの食文化の違いについて

石田楓奈
石橋陽花里
長嶋琉央
山森史稀
鈴木詩季
田中二虹
内藤己陽
星野仁志

引率者

三浦市立三崎小学校 教諭 山岸 光

自分自身、15年ぶりの海外。楽しみよりも緊張が勝っていたように思います。日本を離れ、誰も自分を知らない場所で過ごすというのは、日常ではなかなか得られない貴重な経験でした。言葉が通じず、頼りたくても自分でなんとかしなければならない。その中で派遣生の引率を任せられ、自分にできることを探しながら、子どもたちと共に準備を進めていきました。

日を追うごとに、派遣生の表情から緊張がほぐれていくのを感じました。ホームステイ先の家族や現地の友達と過ごす中で、少しずつ絆が生まれていきました。子どもたちの様子を見て感じたことは、言葉の壁は思っていたほど高くなく、伝えようとする気持ちこそが大切なのだと共に学びました。困難な状況にも自分の力で立ち向かうことで、派遣生、そして私自身も本当の意味で自立の心を育てることができたように思います。

福祉についてもっと学ぼう パラスポーツウォーナンプールの人々は本当に温かく、拙い英語でも最後まで耳を傾け、気持ちをくみ取ってくれました。安心して過ごすことができウォーナンプールの地のすばらしさを体験できたことも貴重な経験でした。今回、派遣生の未来への確かな一歩を見届けられたこと、そして三浦とオーストラリアを結ぶ交流の温かさに触れられたことは、何よりの財産となりました。貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

三浦市教育部青少年教育課 主事 玉田 美穂

三浦市青少年派遣団の引率として、10日間にわたり貴重な経験をさせていただきありがとうございました。社会人経験が浅い中での引率に不安を感じていましたが、無事に帰国できたことに安堵しています。本事業の実施にあたりご尽力いただいたブラウワーカレッジのブルックさん及びジェイデンさんをはじめ、ホストファミリーのみなさん、携わっていただいた全ての方に本当に感謝しています。

出発当日、派遣生は期待と不安でいっぱいの表情の中、飛行機に搭乗しましたが、翌日ウォーナンプール駅でホストファミリーに会うと表情は明るくなり、これから始まる体験に心を躍らせていました。ブラウワーカレッジでは積極的に授業を受けており、休み時間にはクラスメイトとの談笑やバスケットボールを楽しんでいる姿が印象的でした。登下校の時間やスナックタイム等、日本とオーストラリアの違いを肌で感じ、驚きながらも柔軟に対応していました。ホストファミリーとも日が経つにつれ打ち解け合い、別れの日には泣いている派遣生もいて胸が熱くなりました。

派遣生には、この事業を通じて得たものや学んだことを今後の人生に活かし、様々なことに挑戦してほしいと思います。

活動日誌

- 8/11 三浦市 → ・ → 成田空港 → 
- 8/12 → メルボルン空港 →  → サザンクロス駅
→  → ウォーナンプール駅
- 8/13 ブラウワーカレッジで歓迎会・授業体験
- 8/14 ブラウワーカレッジでの授業体験
- 8/15 ブラウアーカレッジでの授業体験
→ ウォーナンプール市長 表敬訪問
- 8/16 ホストファミリーとの生活体験
- 8/17 ホストファミリーとの生活体験
→ 送別会
- 8/18 ウォーナンプール駅 →  → サザンクロス駅
→ メルボルン市内視察
- 8/19 メルボルン市内視察
→ 在メルボルン総領事館表敬訪問
- 8/20 サザンクロス駅 →  → メルボルン空港 →
 → 成田空港 → ・ → 三浦市

ALT による研修会（チエル Sea 三浦）



報告会（三浦市役所）



成田空港出発ロビー



DAY1 8月11日(月) 天気：曇り

報告者 内藤 己陽

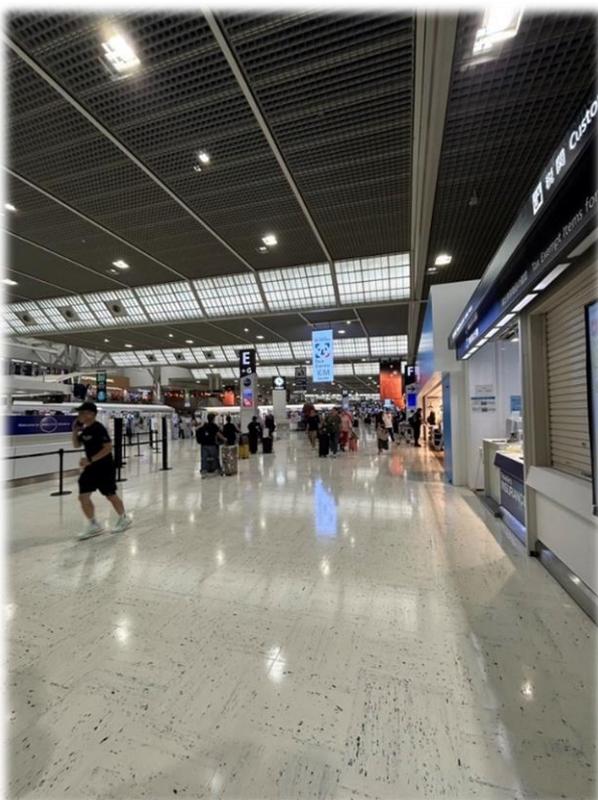
活動内容 移動

場所 三浦市→(列車・車)→成田空港→(飛行機)

成田空港出発ロビー



空港ロビーで出国を待つ人々



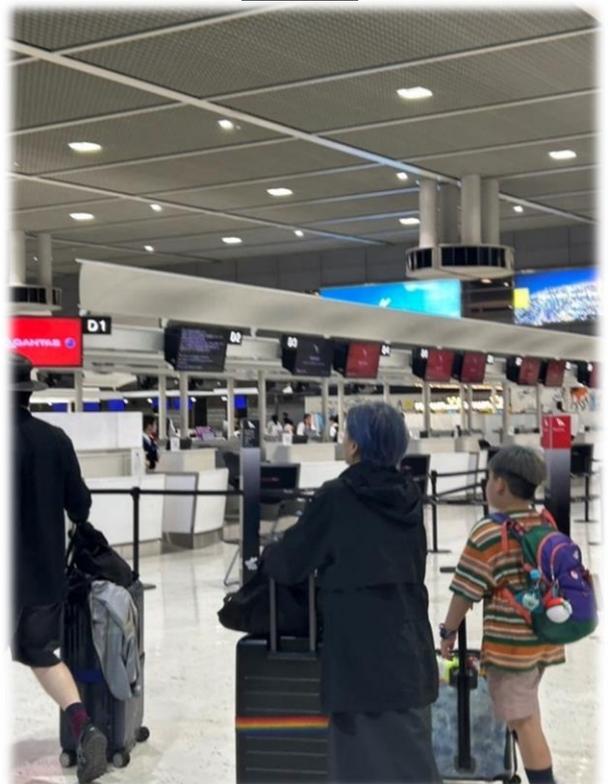
日本からメルボルンへ出発！！

10日間の中でも初日でみんな楽しみにしていました。空港に着いたらまず、チェックインをし、その後の自由時間で、みんなお買い物だったり、他にも展望デッキに行ったりして楽しんでいました。

親や三浦市青少年教育課の方たちもお見送りにおいでになり、出発前の最後のお別れとなりました。保安検査場に入っても見えなくなるまで手を振ってくださり、より気持ちが高ぶりました。

保安検査場ではみんな荷物がひっかからないかドキドキしていました。搭乗したあとは、離陸するときをワクワクしながら待っていて、10日間の旅がスタートしました！

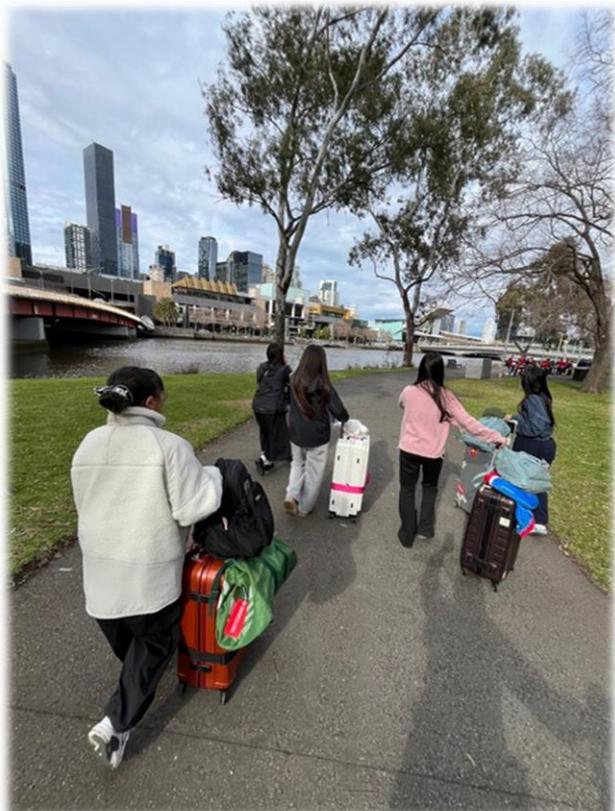
搭乗手続



DAY2 8月12日(火) 天気：曇り

報告者 石橋 陽花里
活動内容 移動 オーストラリア到着とホストファミリー初対面
場所 メルボルン空港 → (バス) → サザンクロス駅 → (列車)
→ ウォーナンブール駅

メルボルン市街バットマンパークにて



長い飛行時間を過ごし、ついにメルボルン空港に着きました！

着いた時はとても寒く、体がガタガタ震えました。入国審査もすぐに済み、空港からは、“Sky Bus” を使いサザンクロス駅に向かいました。次の移動まで3時間程あったので、2グループに分かれてメルボルン観光をしました。女子グループは“BATMAN PARK”に行ったり、ショッピングモールにいたりしました。私達は想像していたショッピングモールとは、だいぶ違い驚きましたがグループの一人がお目当てのもの(UGGのブーツ)を買えたのでよかったです!!

ウォーナンブール駅でホストファミリーと一緒に



DAY3 8月13日(水) 天気：晴れ

報告者 鈴木 詩季

活動内容 ブラウワーカレッジで歓迎会・授業体験

場所 ブラウワーカレッジ

今日は、ウォーナンブール市に来て初めての朝、初めての登校日でした。

朝は、スクールバスに乗ってブラウワーカレッジに行きました。バスは、日本の観光バス程の大きさで、とても大きかったです。たくさんの生徒が乗っていました。朝のホームルームは、外で行いましたが、生徒がたくさんいて驚きました。1時間目は、図書館で、派遣生は英語で、ブラウワーカレッジの生徒は、日本語で自己紹介をしました。そしてミニケーキのようなものを頂きました。とても甘かったです、おいしかったです。

2時間目は、学校を紹介してもらい、ホストファミリーと一緒に体育の授業を受けました。とても大きいグラウンドで、グラウンド外も使い鬼ごっこのような事をしていました。

その後はドッジボールのような事をしていました。ドッジボールとは違うルールみたいでした。私は制服を着ていた為、見学させてもらいました。3、4時間目は、数学でした。ホストファミリーと同じ授業です。

内容は方程式だと思います。 $X + 3 = 7$ $X = 4$ のような計算をしました。授業は電卓や電子機器を(iPod やパソコン) 使用することが出来ました。中にはゲームを行っている生徒もいました。そしてオーストラリアの人は、繰り上がりや繰り下がりの計算は、電卓を使用するようです。日本は暗算で繰り上がりや繰り下がりができる人が多く驚かれました。

昼休みは、中庭のようなところで、ホストファミリーはご飯を食べていました。

そして、ステージで坊主になっているイベントがありました。そのイベントは何かというと癌の人の為に髪をあげることでした。(ヘッドネーションみたいな) そして募金もしていて、とても優しい国だと感じました。5、6時間目は、技術の授業を派遣生 8 人と行い、キーホルダー(鍵かけ)を作りました。

木を切ったり、接着したり、日本の技術と似ていました。しかし日本にはない工作機械も使いました。木を焼いて(焦がして)文字を書いたりするものです。それが一番難しかったです。あとは、技術の先生のGIBBO(ギーボ?ギボ-?)がフレンドリーで、面白い先生でした。

歓迎会 ブラウワーカレッジ



5、6時間目 技術の授業



DAY4 8月14日(木) 天気：曇り

報告者 田中 二虹

活動内容 ブラウワーカレッジでの授業体験
市内散策、ホストファミリーとの自由時間

場所 ブラウワーカレッジ、ポート・フェアリー、ホストファミリーの家

今日は、ブラウワーカレッジ2日目でバス登校でした。30分位バスに乗り、ブラウワーカレッジに到着するとホストファミリーの友達と一緒に話しながら学校を散策しました。そしてチャムが鳴った後ホームルームを受けました。ホームルームの先生が話しかけてくれてとても嬉しかったです。1、2時間目は日本語の授業を体験しました。ホストファミリーの子は別の授業だった為、とても緊張していました。初対面のブラウワーカレッジの子とグループになって様々なゲームをしました。ゲーム中でもコミュニケーションを取れてとても楽しい時間でした。

1、2時間目が終わった後、ホストファミリーの子が迎えに来てくれて休み時間があるのでホストファミリーの子とその友達と一緒に売店に行き、ブラウニーを買ってくれました。とても美味しかったです。

次の時間は、体育の授業でした。準備体操をしたら3~4人のグループに分かれ、クイズラリーをしました。学校の周りを走り過ぎてとても疲れました。でも、そのおかげで学校の事をよく知る事ができました。

3、4時間目が終わり、お昼の時間になると外のベンチでホストマザーが作ってくれたお弁当を食べてホストファミリーの子のミュージカルの練習を見ました。

5、6時間目は今日初めてホストファミリーの子と同じ授業でメディアの授業を受けました。映画を見ましたが、もちろん英語だった為、私にはとても難しかったです。そして、メディアの先生に発言を求められて少し戸惑いましたが答えられたと思いました。

学校が終わり、バスでホストファミリーの家に戻りました。ホストファミリーに活動日誌を書く日があって今日は私のターンだと伝えたら放課後に色々な場所に連れて行ってくれました。

犬を連れてドライブをし、近くのビーチで散歩をしました。

その頃はものすごく天気が良くて景色が綺麗でした。

そして今まで以上にホストファミリーとうまくコミュニケーションを取れて楽しかったです。

次にポート・フェアリーという場所に連れて行ってくれました。

ポートがたくさん止まっている場所でした。その周りに家がたくさん建っていたのですがホストファミリーの子が「ここは高い」と日本語で一生懸命に伝えてくれて嬉しかったし、とても可愛らしかったです。

家に帰った後、一緒に「ウィキッド」という映画を見ながらおにぎりを作りました。米を炊く所からやりました。水の分量と火力を少し間違えてしまい米が硬い部分もできてしまったのに、おにぎりの事を家族全員が「大好き」と伝えてくれて、すごく嬉しかったです。

今日はとても楽しい時間が過ごせました。

家族みんなで行ったチョコレート工房



家族みんなで犬の散歩



大好きなホストファミリー



DAY5 8月15日(金) 天気: 晴れ

報告者 石田 楓奈

活動内容 ブラウワーカレッジでの授業体験
市長に表敬訪問、ホストファミリーと過ごす

場所 ウォーナンブール市、ザ・トゥエルブ・アポストルズ

グレードオーシャンロード

ザ・トゥエルブ・アポストルズ

今日は、3Period まで授業を受けた後、みんなでお土産屋さんに行ってそれぞれほしい物を買った後、市長に挨拶をしに行きました。

最初は緊張で固い空気だったけど市長が色々笑いながら質問をしてくれて和やかになりました。これから何をするのか、何が楽しみかなどを話しました。話し終わった後は市長とみんな写真をとって楽しい雰囲気でした。市長との挨拶が終わった後は学校に戻ってから帰宅でした。

私はこの後、The twelve Apostles (12人の使徒)に行きました。石灰岩でできた海食柱というのがある所です。12柱あるのかと思っていたけど、波によって浸食されてしまい8柱しかないそうです。

ものすごく風が強かったけど風によって波が少したって海の色がエメラルドグリーンでとても綺麗でした！！



ウォーナンブール市長 表敬訪問



ホストファミリーと一緒に



DAY6 8月16日(土) 天気：晴れ

報告者 山森 史稀

活動内容 ホストファミリーとの生活体験

場所 ウォーナンブール市内(タワーヒル州立鳥獣保護区、ビーチ)

今日は、ホストファミリーと一緒にタワーヒル州立鳥獣保護区(Tower Hill)と市内のビーチに行きました。昼過ぎにまず Tower Hill を訪れ、エミューやコアラを見ることができました。到着した瞬間、目の前に広がる大自然と新鮮な空気に圧倒され、とても感動しました。エミューは遠くにいて、近づいてくる事はありませんでしたが、野生の姿を実際に見ることができて貴重な体験でした。コアラは木の上でゆっくり休んでいて、写真を撮るのが少し難しかったですが、可愛い姿を間近で見ることができて嬉しかったです。Tower Hill を散策する中で、珍しい植物や野生動物に出会い、オーストラリアならではの自然を肌で感じる事ができました。ホストファミリーが丁寧に説明してくれたおかげで、環境や動物について多くを学ぶ事ができました。

その後、市内のビーチへ向かい、海を眺めながらゆっくり散歩しました。風が気持ちよく、空と海の青さがとても綺麗で、静かな時間を過ごす事ができました。

夜にはもう一度 Tower Hill に戻り、今度は野生のカンガルーを見に行きました。暗くなってから動き出すカンガルーたちの姿は昼間とはまた違った雰囲気があり、とても印象的でした。何頭ものカンガルーが草を食べたり跳ねたりしているのを見て、まるで自然のドキュメンタリーの中にいるような気分でした。今日は、自然と動物にたっぷり触れた一日で、心も体もリフレッシュできました。オーストラリアの豊かな自然と、ホストファミリーの温かさに触れる事ができた素晴らしい日になりました。

果てしない青との出会い



一日の終わり、心がほどける瞬間



DAY7 8月17日(日) 天気：晴れ

報告者 山森 史稀

活動内容 ホストファミリーとの生活体験(送別会、自由時間)

場所 ウォーナンブール市内(ホテルのバー、海沿いのカフェ)

今日は、滞在中にお世話になった人達とのお別れ会がホテルのバーで開かれました。最初は少し緊張していましたが、顔を合わせるとこれまでの思い出がよみがえり、自然と笑顔になりました。会の中では、参加者が順番に前に出て、感謝の気持ちや思い出を話す時間があり、私も前に出てホストファミリーへの感謝を伝えました。短いスピーチでしたが、この滞在で学んだ事や感じた事を自分の言葉で伝える事ができて、とても良い経験になりました。

お別れ会の後は、ホストファミリーと一緒に海沿いのカフェに行きました。窓からは、広がる美しいオーシャンビューが見え、穏やかな時間が流れていました。注文したコーヒーもとても美味しく、のんびりとした時間の中で、この町で過ごした日々大切さを改めて感じました。

今日は感謝と別れの気持ちが入り混じった一日でした。多くの人との出会いと支えのおかげで充実した時間を過ごす事ができ、この経験をこれからの人生にしっかり生かしていきたいと思います。

海沿いのカフェ



ホテルのバー 送別会



DAY8 8月18日(月) 天気：曇り

報告者 長嶋 琉央
活動内容 移動、メルボルン市内視察
ウォーナンブール駅→(列車)→サザンクロス駅
場所 主にメルボルン市内

朝、ホストファミリーとお別れをし、メルボルンに向かう。

(電車の中は日本と同じような静かな車内でした。)

14時頃にホテルチェックインをし、そこからセントポールズ大聖堂、ホーシャーレーン、ビクトリア国立美術館に行きました。

美術館では着物の展示があり、日本の文化が世界に届いているのを実感しました。

また、セントポールズ大聖堂では、キリスト教にまつわる様々な展示があり、とても興味深いものでした。

さらに、実際の教会のデザインや設計にも圧倒されました。

セントポールズ大聖堂



ビクトリア国立美術館



DAY9 8月19日(火) 天気：晴れ

報告者 長嶋 琉央
活動内容 メルボルン市内視察、総領事館訪問
場所 メルボルン市内

クイーンビクトリアマーケット

朝はクイーンビクトリアマーケットに行きました。オーストラリアの文化を感じる商品もたくさんありましたが、アジア系の伝統的な品も多かったです。昼頃にメルボルン市内の図書館に行きました。オーストラリアだけでなく、各国の書物に関する展示があり、日本は葛飾北斎や歌川広重の風景画が展示されていました。

夕方に在メルボルン総領事館に訪問し、とても貴重なお話を聞くことができました。

古谷総領事が外交では、自国の意見が51%通り、相手国の意見が49%通るのが一番理想的だとおっしゃっていて、外交の正解のない難しさを学ぶ事ができました。



在メルボルン総領事館表敬訪問

ビクトリア州立図書館



総領事と懇談会



DAY10 8月20日(水) 天気: 晴れ

報告者 星野 仁志

活動内容 移動 日本へ帰る

場所 サザンクロス駅→(バス)→メルボルン空港→(飛行機)
→成田空港→(列車・車)→三浦市

今までウォーナンブルやメルボルンなどでたくさんの事を経験してきました。今日はついにオーストラリアから日本へ帰国する日です。飛行機の出発が9時と早かった為、朝5時にロビーで集合し、みんなと一緒にホテルを出発しました。外の気温は10度ほどで持っていた厚着をすべて着ても、寒さを感じました。でも日本に帰るとこの寒さもしばらくの間、感じなくなるかと思うと、少し寂しい気持ちになりました。

空港まではバスで移動しました。車内は暖かく、眠気もあって気づいたら空港に到着していました。バスの中ではみんなも早起きだった為、ほとんどの人が寝ていたようです。

空港に着き、最後のお土産を買った後、飛行機に搭乗しました。

行きの飛行機では緊張していたせいか、着陸まで長く感じましたが、帰りはあっという間に感じました。飛行機の中では自分も含め、みんなぐっすり寝ていました。

成田空港に到着し入国審査では特に問題なくスムーズに進みました。

久しぶりに家族と再会し、派遣団のみんなと写真を撮った後、家族と一緒に帰宅しました。帰りの車の中では家族からたくさんの質問をされ、それに答えるのも楽しかったです。

成田空港入国ロビー



機内 オーストラリア上空



機内 日本上空



報告活動

壮行会 7月28日(月)

.....
三浦市役所にて
市長、市議会議長、市議会都市民生委員長、教育長、青少年姉妹都市国際交流実行委員、派遣生の保護者に出発に際し活動計画などを報告し、みなさんから激励のお言葉をいただきました。



報告会 8月25日(月)



三浦市役所にて
市長、市議会都市民生委員長、教育長、青少年姉妹都市国際交流実行委員、派遣生の保護者に渡航中の活動報告をしました。
研究課題のほか、印象深い出来事、これからの学校生活等における新たな想いなどを語りました。

報告会 8月28日(木)

.....
三浦ロータリークラブにて
例会に出席の会員の方々へ、渡航中の活動の報告をしました。
派遣団を代表し、石橋さん、山森さん、鈴木さんが研究課題のほか、印象深い出来事や、これからの学校生活等における新たな想いを報告し、引率の玉田主事から派遣事業の成果等を報告しました。



展示 11月16日(日)



ブースを出展し、活動日誌や研究課題等を展示しました。
派遣生が、未来の派遣候補となる小・中学生に対し、活動内容を話すなど、事業へ興味や関心、市民の皆さんの理解を得る機会としました。

Australia と Japan のサービスの違い について!!

〈洋服屋さん〉

○ Japan

★ 入店時 → いらっしゃいませ

★ 探し中 → 気になるものがあれば
"試着できますので"

★ 試着 → サイズ"いかがですか?"
他のサイズ"お持ちします"

★ 買う時 → ありがとう"さ"います!
打ってお持ちしております!

○ Australia

★ 入店時 → Hi! how are you?!

★ 探し中 → ~~必要~~
必要な時に
自分から呼びかける!

★ 試着 → ~~試着~~
探し中と同じで
自分から再かける!

★ 買う時 → Did you find
everything ok?

📌 紙は"くる無料"をつけてくれる!

★ 日本は丁寧で"店員さん"からきてくれる!

オーストラリアは話かけるとフレンドリーに話してくれる!

🏠 < 飲食店 > 🥤

○ Japan

- ★ 水くれる
- ★ 料理くるの早い
- ★ 最後に合っているか確認

○ Australia

- ★ 水なし → 頼む
- ★ 料理くるのに時間かかる
たむこしほりにまだかなーって思っていました
- ★ 言った時にくり返すのみ

- 洋服屋さんと同じくフレンドリーで楽しい! 🍷
- 日本は清潔さがすごいからオーストラリアはどうなんだろうと
思っていたけど気にならず同じくらいキレイでした
- 私はオーストラリアの親戚のバースデーパーティーで
レストランに行きました。一部貸切の所でやったので"おかし"
そには インスタカメラがありました。しかもなんと
1つだけではなくテーブルに1つのおカメラがあったので、
日本だったら 店員さんがとってくれてその写真をもらうという
サービスですがカメラが置いてあるのは初めて見たので
ビックリしました。これもお店での店員さんとお客さんとの
関わり方の違いによるものなのかなと思いました。



<飛行機>

○Japan

丁寧・親切 機内食や飲み物を運んで来てくれる時など
周りを配慮した動き

○Australia

笑顔が多い Hi! と言う時必ず「笑顔で返してくれる!」
挨拶したいと思える雰囲気!

<スーパー>



日本は有人レジ・無人レジの「両方ある」場所が
有人レジでのりの場合が多い



オーストラリアは「セルフレジでのり」というのが一般的でした。
店員さんは主に品出しをしていてイメージで
レジでこまった時に助けてくれました。

レジ袋は洋服屋さんと違い日本と同じで「有料!」でも
ビニール袋でのりではなく何度も使えるエコバックのイコバ
ックもあっていました。

🇯🇵 <ファストフード> 🍎

日本はタッチパネルしてセルフレジで頼むか有人で頼むか
どっちもある場所が多い

オーストラリアも同じく両方ある所が多いから

商品を渡す時の違いとして日本はしっかり手で渡すけど
オーストラリアはお客さんが取ってきてくれるのが当たり前
テーブルに置いて他の人の専用車いしに行っちゃう

🇯🇵 <比べてみて...> 🇦🇺

🇯🇵 日本は丁寧でお客様第1!

お客様からすると少し気をつかってやぶななって思っている人も
いると思うけど悩んでいるとそれに気がついて

🇦🇺 手伝いますよとかがって話かけてくれる

🇯🇵 オーストラリアはフレンドリー!

お店に入る時にあいさつするくらいで向こうから

話かけてくれることは少ない!でも話しかけると笑顔で対応してくれる!
みんなそれぞれの時間を楽しんでいて感じ!

日本とオーストラリアの教育方法の違い

→それが生徒たちにどのような影響を生み出しているのか

〈教室〉

○オーストラリア

- ・長机に2人~4人
- ・ホワイトボード
- ・教科により教室を移動
- ・教科に関するプリントが壁に多く貼られている



なぜこのようなカラフルな教室になるのか



日本とは違い、各教科の先生たちが教室をもちいるから、その教科の先生により変ってくるから。

○日本

- ・1人1個の机
- ・黒板
- ・基本同じ教室
- ・学校に関するプリントが壁に少し貼られている。

日本がオーストラリアのようにプリントが貼られていないのは理由があった!!



日本の学校は「きれいで安全に」「決められた場所に掲示」というルールが重視されているから壁に自由に貼られていない。

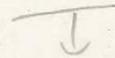
研究課題

<服装・メイク>

①オーストラリア

・基本**自由**

↳制服は一定ある



ワンピース

スカートはみんな膝下だった

・メイクはしていい **OK!!**

↳メイクがバサバサの子もいた!!

・ワンピース・アウセサリーも **OK!**



②日本

・毎日制服

↳ワンピースではない

Yシャツ、スカートと分かれている

・スカートは基本膝

↳学校にもよるが...

・学校にもよるが基本 **NG!!**

・ワンピース・アウセサリーも **NG!!**

すこし **自由** があった

みんな件件していた!!

日本のJKはワンピースが

あつたなくて、悔しがっている人がたくさんいる。

でも、逆にオーストラリアの制服の

スカートは膝下だからJKは

そこに関しては残念がると

思った。

研究課題

<授業>

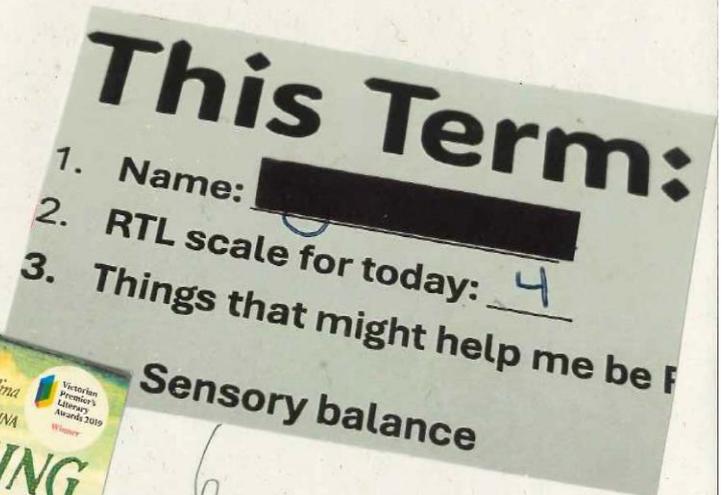
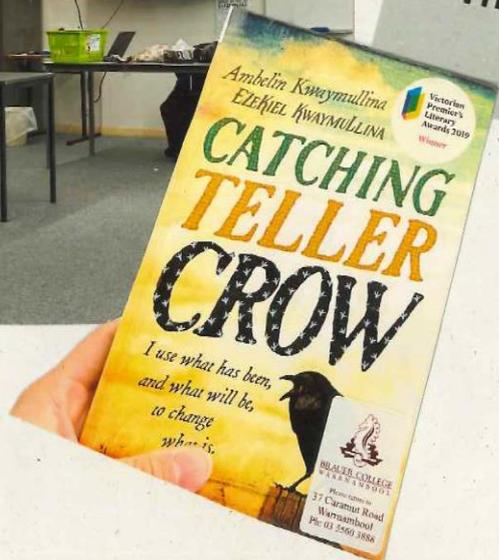
①オーストラリア

- ・ 1科目 **40分**
- ↳ 2回続けてやる授業(80分)が多かった。
- ・ 先生が「教える」というより「なぜこうなったのか、この後どうなると思う」と生徒の思考力を高める。
- ・ **「学びを導く人」**の雰囲気だった。
- ・ 先生の立ち方座り方は**自由**
- ・ Englishの授業では、教科書ではなく本を音読していた。

②日本

- ・ 7科目 **50分**
- ・ 先生が前に立って「教える」側、生徒は「聞く」側という雰囲気
- ・ 基本先生は座っている。
- ・ 全教科に教科書がある。

☆オーストラリアには頭を使う教材では「Break time」があって、ちびちび歩みに行ったり、お菓子を食べたり、話したりして、リフレッシュしていた。



自分の体調や自分が理解できていない範囲に丸めて先生に出すプリントがある!!

研究課題

〈違いが生徒たちにどのような影響を生ま出しているのか〉

私はオーストラリアの教育は「想像力・主体性・明るさ」が日本の生徒たちを増すと思いました。それは自由の多さや先生の指導のおかげだと思いました。

ですが「自由の多さが悪目立ちしている時」がありました。

例えば、Break time でもないのにお菓子を食ったり、何十分も歩きに行っていたり...

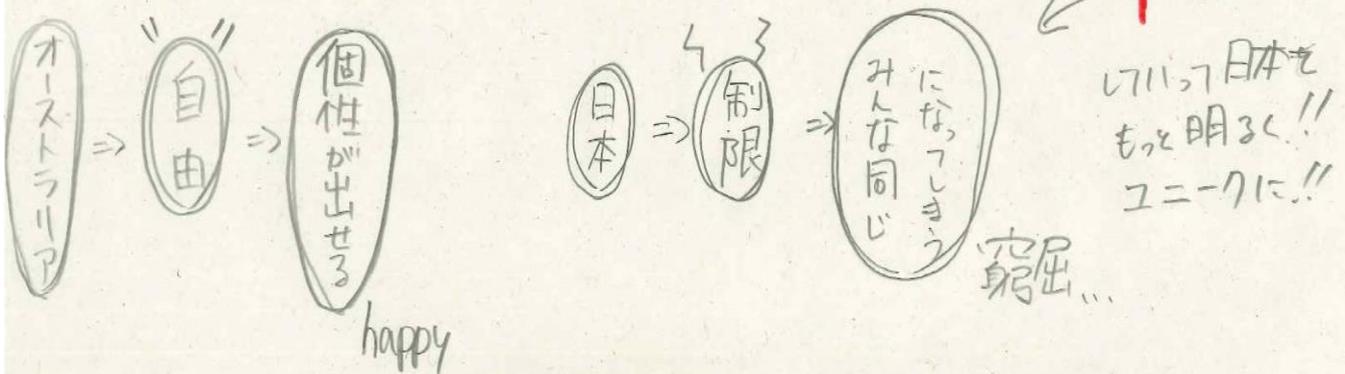
日本では自由があまり多くないから、そのようなことが多くおきません。

それが日本教育の良い所だと思いました。

ですがその自由のなさに反感を持って校則をやぶり、休学だったりの罰が与えられてしまいます...

私は「人の個性」を大事するべきだと考えているので、オーストラリアの教育方法をもっと日本に取り入れていくべきだと思いました。

特に、先生が全部教えるのではなく、「なぜこうなったのか、の後はどうなるか」と生徒の思考力・その質問に答えるための主体性を高める教育方法が大事だと思いました！！



調べる目的

自分がコミュニケーションの際、消極的になってしまう時が多々ある。これは日本人にとって少ないケースではないと思いました。しかし多少、性格の問題もあるが海外の方は積極的なひとが多いと感じたので一緒に生活してみてもどのような事がこの差を生み出しているのか、また自分にはどう活かせるかを研究したかったからです。

自分はオーストラリアに行く前と行ったあとで考え方がどう変わったのか、それを知るために仮説を立てました。

仮説

- ・ 挨拶の距離感が普段から近いから、もともとの人との距離感が日本より近いからではないか。
- ・ 家庭内や学校内での教育の仕方に違いがあるのではないかと、これらが外国の方々の積極性に結びついているのではないかと考えました。

到着直後のホストファミリーによるお出迎え



結果

- 街中などを歩いている時に全く知らない人でも笑顔で挨拶してくれる
- 学校の授業のときなど、初めて合う人なのにすごい気さくに喋りかけてくれて、ためらいなど一切なく何も気にせずに接してくれる
(教師も生徒も)
- どういたしましてが返ってくる
- 授業が生徒たちひとりひとり能動的にとりくめる授業スタイル
- 親や先生などみんな頼んだらすごい親切になにかしてもらえるが自分から何も言わないでいると、何もしてもらえないので自分から行動する必要がある (自分は結構気にかけていただきました)

街中のピザ屋さんへディナー



ラザニアパーティー



考察

- 自分から行動を起こさないと何もしてもらえないというのが当たり前となっているからか、人をお願いする事への躊躇がない
- 挨拶なども言葉だけでなく、握手やハグなど普段から距離感の近いコミュニティの中で生活しているからではないか。
- 友達同士の朝の挨拶ですら握手をしていた。

考察をまとめると、普段から人に自分の感情を伝える習慣があるから、コミュニケーションの際に積極的に行く事ができるのだと思いました。むしろ積極的に行っている自覚すらないのであると考えるほどでした。

3日間ありがとう



感想

私は今回の旅を通して、外国の方々のコミュニケーションの際、積極性はとても見習うべきものだと感じました。

相手にどう思われるかを気にしすぎず素直に話す姿勢は会話を明るく、より前向きなものにしていると感じました。

日本では控えめに振る舞うことの多い自分にとってその積極性はとても新鮮でした。

これからは自分の考えをしっかりと伝えることで、より深いコミュニケーションを日本の方とも外国の方とも取っていきたいと思います。

また相手の意見に耳を傾けながら、自分のこれからの成長にもつながると感じました。

1. 調べる目的

今回の短期留学での研究の目的は、日本とオーストラリアの文化の違いに触れる事で、自分が持っている先入観を見直し、異文化理解に必要な事を考える事でした。異なる文化の中に身を置くことで、交流の中で生まれる「ずれ」や気づきを観察し、それを通して異文化交流をよりよく進める為の視点を得ることを目指しました。

2. 仮説

オーストラリアに行く前の私は、「日本とオーストラリアは先進国同士で生活の仕方や価値観に大きな差はなく、言葉さえ乗り越えられれば交流はスムーズに進むだろう」と考えていました。また、日本という国は海外から好意的に見られている為、自分が日本人であることを伝えれば、自然と興味を持ってもらえるのではないかという思いもありました。つまり、文化の違いは存在しても、それほど大きな壁にはならないだろうという仮説を立てていました。

3. 結果

実際にオーストラリアで生活してみると、その仮説は大きく修正する必要があると感じました。表面的には似ている部分もありますが、細かいところで日本との違いが多くありました。

まず強く感じたのは、会話のスタイルの違いです。日本では相手の発言をよく聞き、自分の意見を控えめにすることが礼儀とされる場面が多いですが、オーストラリアでは積極的に意見を言うことが自然であり、相手との信頼関係を築くためにも大切にされていました。最初は戸惑いましたが、現地の友達とのやり取りを通じて「率直に伝える事が誠意につながる」という考え方を理解する事が出来ました。

また、生活習慣の違いも印象的でした。ホストファミリーと食事をした時、食事中に家族全員が会話を楽しむ姿に驚かされました。日本では静かに食べる事が多いのに対し、オーストラリアでは積極的に話す事が自然で、沈黙はむしろ不自然に感じられていました。最初は緊張しましたが、一生懸命話す姿勢を見せると笑顔で受け止めてもらえ、会話を楽しむ事が出来るようになりました。

さらに、自分の文化を説明する難しさも実感しました。日本の学校生活や日常習慣について質問されても、当たり前だと思っていた為、上手く言葉にできず、もどかしさを感じました。この経験を通して、自分の文化を理解しているようで実は深く考えていなかった事に気づきました。

4. 考察

今回の経験から分かった事は、異文化理解には二つの力が不可欠だということです。第一に、相手の文化を尊重し、違いを前向きに受け入れる姿勢です。自分の当たり前が必ずしも世界の当たり前ではなく、違いを知る事とは新しい学びにつながるのだと実感しました。第二に、自分の文化を自覚し、相手に説明する力です。自分の背景を語れなければ、相手に理解してもらえず、交流は表面的なものになってしまいます。

行く前に抱いていた「先入観を持たずに交流すれはうまくいく」という考えは不十分でした。先入観を完全になくす事は難しいですが、自分がどんな先入観を持っているかを意識し、そのうえで相手の立場に立って考えることが重要です。違いを「壁」と見るのではなく、「相手をより深く知るための入り口」と捉える事が出来た時、真の異文化理解につながるのだと感じました。

今回の短期留学は、言語の壁や文化の違いに直面するたびに新しい発見がありました。この体験を通して得た学びを忘れずに、今後も異なる文化を尊重しながら、つながりを広げていきたいです。

日本とオーストラリアの
星座の違い

予想

日本で見ゆるオリオン座などは角度が
変わって見える

結果

見る方向を変えても、
なさそうでした。(見えませんでした)

なので

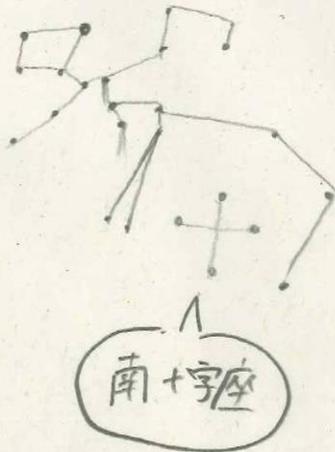
オーストラリアで撮った写真と、
インターネットを利用します。

インターネットで調べたこと

★ 日本でも春に見える
ケタウロス座の
下には、
南十字座が見える。

これは、日本では見えない

ケタウロス座



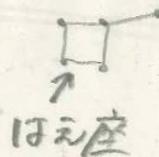
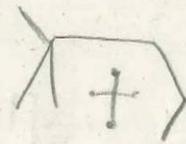
★ ★ 南半球でしか見れない星座

全9種類

の中で、3つだけ...

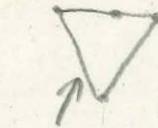
1. はえ座

南十字座のすぐ下にある。

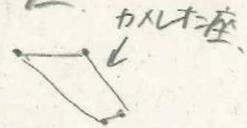


2. カルシオン座 

はえ座の右下にある



カルシオン座



3. みのさんかく座 

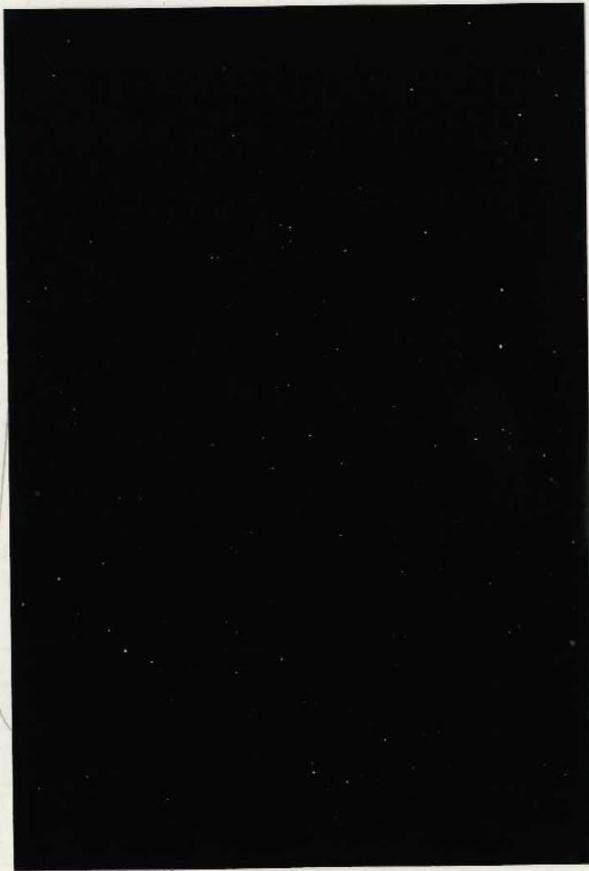
カルシオン座の左にある

間に、
バンちょう座がある。

写真の予想

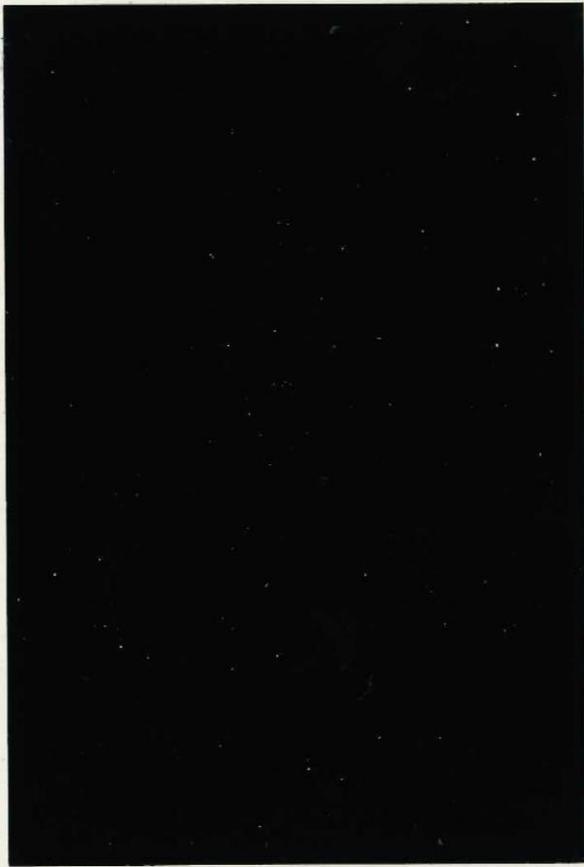
3枚目

はえ座らしき物発見🔍



うあいでいあが、
中央らへんに
はえ座を
見つけました！
あなたは
見つけられますか??
👁️👁️

答えは
次へ⇒



分かりづらいですが
中央にはえ座
左下にみのさんかく座
右にカメレオン座
はえ座の上には、ケンタウロス座の下の方
が見えました。
南十字座は見えずに残念です...

まとめ、感想

南十字座は見えませんでしたか、
はえ座、みかさかく座、カメレオン座が
見えて、良かったです。

フォーナングルは、牛がたくさんいて、
1つ1つのお家の土地が広く、三浦より
自然いっぱいいて、星空は、とても美しかったです。
夜はとても寒かったですか、あつといたかったです。

三浦も光る建物も少なく星が見えやすい
環境です。

みなさんも見てみてください！☆

1. 目的

- 文化や生活習慣の違いを理解するため
- 日本のことも改めて考えて意識するきっかけにするため

2. 休日の過ごし方の違いについて

〈オーストラリア〉

- ビーチ
- 公園
- BBQ
- ピクニック
- 家族と過ごすのが一般的

ホストファミリーに休日の過ごし方について聞いてみると、ホストファミリーはメルボルンに住んでいる祖父母の家に行ったり、ビーチに行くと言っていた。

〈日本〉

- ショッピングモール
- カラオケ
- ゲームセンター
- 家族よりも友達が多い

3. 考察

- ✳ オーストラリアは家族と自然や観光地に出かける
→ 屋外、優雅・のんびり過ごす
- ✳ 日本は主に友達とカラオケやゲームセンターなどの娯楽施設が多い
→ 屋内、忙しい

4. ホストファミリーに連れて行った場所

〈実際に連れて行ってもらった場所〉

Light tower

夕日と海の組み合わせがすごく綺麗でした。



行く途中にワラビーを見ることができました。



Loch ard gorge

ホストファミリーが岩の歴史など全て教えてくれました。
三浦にはない景色でとても感銘を受けました。



Supermarket

美味しそうなオーストラリアの食べ物がたくさんありました。



Tower Hill

木の上ですやすや寝てるコアラも間近で見ることができました。
とても可愛かったです。



Little Bit of Sweet

お菓子の詰め合わせを体験しました。
店内も可愛くお菓子もとてもおいしかったです。



Timboon Fire Ice cream

お店の雰囲気もすごいおしゃれで何よりアイスクリームが
とても美味しかったです。



5. 国の祝日の違い

<国の祝日の違い>

オーストラリア

- ・ニューイヤーデー (1月 1日) 同じ
- ・Australia Day (1月 26日) ⇒
- ・クリスマス (12月 25日)

日本

- ・元日 (1月 1日)
- ・建国記念日 (2月 11日)
- ・クリスマス (12月 25日)

-
- ・ボクシングデー (12月 26日)
 - ・ANZAC day (4月 25日)

- ・成人の日 (1月の第二月曜日)
- ・春分の日 (3月 20日)
- ・昭和の日 (4月 29日)
- ・憲法記念日 (5月 3日)
- ・こどもの日 (5月 5日)
- ・山の日 (8月 11日) など

オーストラリアは州ごとに休みが異なる

※ ボクシングデー

オーストラリアやイギリス、カナダなどにある祝日の一つ

昔は貧しい人に贈り物を配っていた

→ 今はクリスマスの翌日のため、買い物やスポーツを楽しむ日とされている

6. 考察

- ☆ ・ 明らかに日数的には日本のほうが多いように感じた
- ・ オーストラリアは州ごと、日本は国ごと→国が大きすぎるから？
- ・ 同じ祝日が少ない

日本とオーストラリアの 学校生活の違い

1日の流れ

オーストラリア

日本 (中学校)

登校 < 9:00 < 5!!

登校

HR

HR

1~2時間目の授業を受ける
↳ 2時間で1回が多かった!!

1限目) 10分休けい
2限目)
3限目) 10
4限目) 10

・スタックタイム
(長めの休けい)

3~4時間目の授業

昼食
・20分休み時間

・昼休けい

5~6時間目の授業

5限目
6限目) 10

下校

↓
部活
↓
下校

☆ 休み時間の過ごし方

オーストラリア

授業終了のチャイム



中庭に出て友達と一緒に
お菓子を食べてたり、話をし
ていたり自由に過ごしてる!!



次の授業がはじまりそうになったら
授業の準備や教室への移動をする

日本

授業終了のチャイム



次の授業の準備と移動

オーストラリアとは違って
お菓子を持ち込めない!



→ 授業開始

昼休けい

オーストラリア

食堂でお昼ご飯を買ったり、ランチボックス
を食べたりしてる。ここでもお菓子を
結構食べてる! その後は友達
とかと一緒に話していた。

日本

食堂はないX
その代わりに給食を食べる。
校舎内で友達と話すが、
校庭に出て遊ぶ。

昼休けいのおときは沢山の生徒が
中庭に出てきた。ヘアードネーション
もやってたりして楽しかった!

★ 学校がある日の服装など...

オーストラリア

ほぼ毎日制服
水曜日だけ私服の日がある！

先生に注意はされてなかったこと。
(校則的には分らない)

- ・メイク ○
- ・ネイル ○
- ・スカート 膝上 ← 
- ・ピアス、イヤリング ○

日本

制服がジャージ

- ・メイク ×
- ・ネイル ×
- ・スカート 膝下 → 
- ・ピアス、イヤリング ×

体育中

ジャージに着替える

髪が長くても結ばなくてOK!

ジャージで受ける

髪が肩につく場合、結ばないで×



★ 授業の受け方 (オーストラリア)

- ・ 開始のチャイムが鳴っても遅れてくる子がいる。
- ・ PCを1人ずつ自分用のものがあって、PCを活用した授業が多い。
- このときに、ゲームをしていたり、Youtubeを見ていたりして、すごく自由!!
- ・ ワイヤレスイヤホンをつけてる子(片耳)が多かった。
- ・ 授業中も普通に立ち歩いたりしてる。
- ・ 友達と喋りながら受けていて、教室内がにぎやか!

★ 校舎について

- ・ 学年ごとのフロアがある。
- ・ 1階だと、
- ・ それぞれの教科の教室がある。
- ・ トイレが広くて10個ぐらいあった。
- ・ 図書室内では、カードゲームやチェスが置いてあった!

日本とオーストラリアの食文化の違い

星野仁志

一日目、夜

メニュー、ステーキ、トウモロコシ、スティックセニョール、ポテト、

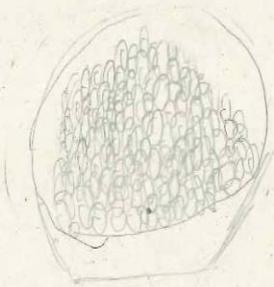
一言、お肉はオージービーフでとてもおいしかった。
ポテトがなかなかたまる。ポテトの色は赤で味はあまみがあった。



二日目、朝

メニュー、ミルクライス、

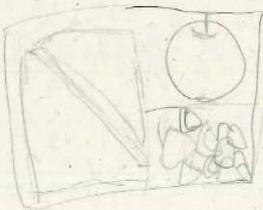
ポーランドの朝ごはん、日本ではお米は水でよくけど、牛乳でおじやのようにしたもの、ハチミツやフルーツなどをのせて、甘くしてた。



二日目、昼

ピーナツバターサンド、リンゴドリアス、

オーストラリアにはスタックタイ4といって、3分時間目の間にあり、リンゴドリアスなどをたかる。リンゴは日本のものより少し小さくて食べやすい丸かじりをして。



二日目、夜

メニュー、ラウサ、

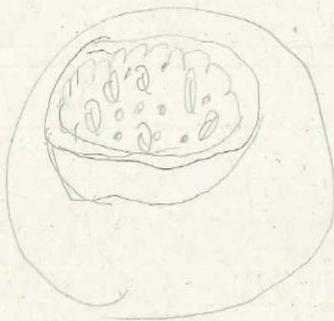
スパイシーでおいしかった。めんが2種類はあった。一つはほろさめのような、とうめいのめん。もう一つは少しとめの小麦でできためん。日本とは違いすずらずにたいた。私がもっていたお箸をつかった。むすかほうでした。



研究課題

三日目朝

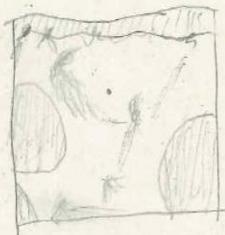
オートミール



イチゴ味だった。いままで初めて
オートミールをたべました。

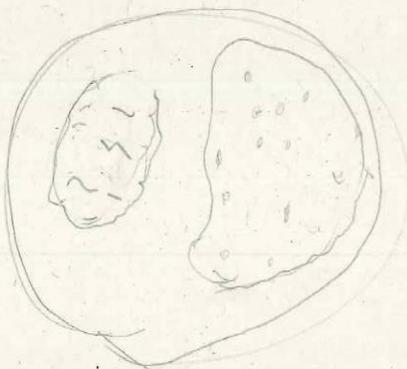
三日目、昼

×ニユー、ピザ



学校にある、購買のような場所で
ピザと Pepsi をたのんだ。ピザの形が
四角形で、ちょうど111サイズでした。

三日目、夜 カツカツ、ジャーマンポテト、キャベツのピクルス、

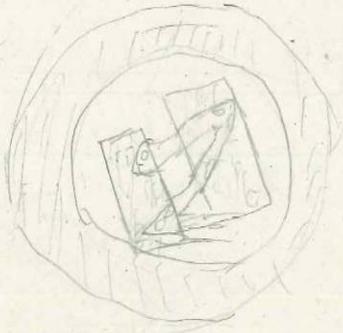


とてもおいしかった。うすいのでも
たべやすく、2本たべました。ポテトは、
ゆでじゃがいもで、おなかにたまりました。
キャベツのピクルスは、口をスッキリさせて
くれます。

研究課題

4日目朝

Xニュー、ピスタチートシリアル



牛乳とハチミツをかけたべました。
おいしかったです。

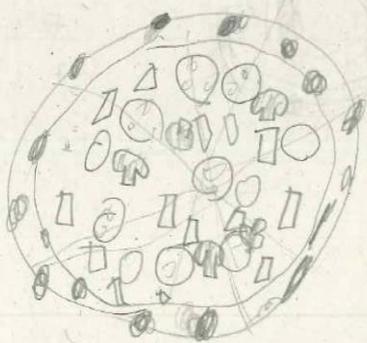
4日目昼

カツレツバーガー、



きのうのカツレツのバーガー。レタス、おろしき玉ねぎ
がはいていて、味つけはマヨネーズ。
とてもたべごたえがある、おいしかったです。

4日目夜



今日はホストファミリーが誕生日でお友達と
ピザをたべた。いろいろな種類をたべた。
パイナップルがはいてるもの、ジャガイモがはいて
るものなどたくさん、デザートピザも食べた。
日本でおなじみ、たんぱうひきは、こうかでした。

研究課題

五日目昼

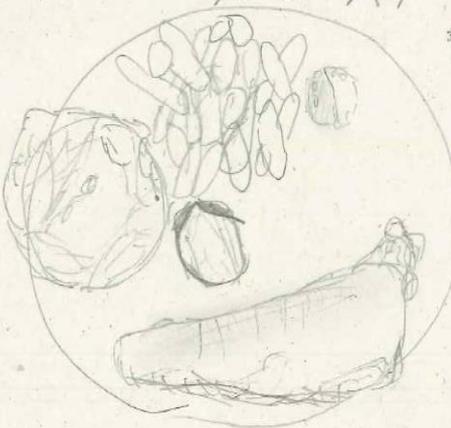
メニュー パン、タマゴ、ベーコン



パンにタマゴ、カリカリのベーコンをのせてたべた。日本の朝食でそんなメニュー

五日目夜

メニュー フッシュ & チップス、ミートパイ



オーストラリアのホッケョラーのたべもの、フッシュ & チップスをたべた。そしてフッシュ & チップスだけじゃなくホッケョラーのたべもの、ミートパイ。おぼろげな揚げ物で見た目は、おもろそうでしたが、たべてみると何回も、本当においしかったです。

六日目朝

メニュー パン、目玉焼き、ハム、ソーセージ



パンにめたまやきをのせてたべた。中が半じゅくでトロツとしていいとおもしろかった。ソーセージもかたないたべた。たえがありました。

研究課題

六日目昼

パン、ベジマイト



○この日はじめてベジマイトをたべた。かなりしょっぱかった。でも、きりいな味ではなかった。でも、バターをたべたら、めりないといふタマがも。

六日目夜

メニュー、お好み焼き、



○この日は自分に作らせてもらいました。

日本の食べ物を作りたいと思ひ、お好み焼きを作りました。お好み焼きを作っている自分のよこはやくたべたいといふてくれたのでつたてくたしてもらうことができました。いままで作ったお好み焼きの甲が一番うまかったと思ひました。

日本とオーストラリアの違ひと同じところ。

- 主食はごはんではなく、ポテトのことがタタリ、ポテト以外にもめんぱ、パンもありませんが、じゃがいもを使ったものがタタリかたにかんじました。
- 他国の食べ物、たとえばラクサなどをたべるのは日本と同じにしている文化だにかんじました。
- テイクアウトはありましたけど、外食は少しすくなりようにかんじました。

○

On the journey



Welcome party



Technical home economics



Japanese language classes



Physical education



Courtesy visit to the mayor



farewell party



ST Paul's Cathedral



Consulate-General of Japan

思い出

報告者 石田 楓奈

12日からホームステイスタート！列車に乗ってウォーナンブールに向かっていると、外には羊や牛などの沢山の動物を見る事が出来てみんなで盛り上がりました！それと同時に段々とこれからオーストラリアでの生活が始まるんだって実感してきて、ホストファミリーと会う前から緊張していました！ホストファミリーは、笑顔で私の事を迎えてくれました！嬉しかったです。

初日から親戚の誕生日会でした。最初は正直 え！が4！って思って緊張したけど、皆笑顔でHi!!って挨拶してくれて少し緊張が和らいで話す事が出来て楽しい時間を過ごすことが出来ました！行ったレストランには遊び場があり、親戚の子達とも関わる事ができて嬉しかったです！

この誕生日会では楽しさだけでなく、食べきれなかったら残しても全然気にしないなど日本との食事のマナーの違いを知ることが出来ました。

ホストファミリーと過ごしたかけがいのない時間



初めての学校の日、友達を沢山紹介してくれました。みんなフレンドリーで男女関係なく仲良くすることが出来ました！学校はとても広く自動ドアがあったのが驚きました！

オーストラリアの学校は lunch time が2回あって、1回目はスナックなどを自分の好きな場所で友達と食べる時間です。2回目は日本と変わらずしっかりしたごはんです。私にはホストファミリーからソーセージロールを昼食に持たせてくれました。お肉がぎっしりしていて食べ応えがあって美味しかったです。

ブラウワーカレッジにはチャリティイベントで坊主にするイベントがあり、実際 lunch time に見る事が出来ました。

この日の夜は、知育菓子と一緒にやりました！

オーストラリアには知育菓子が無いらしくとっても楽しんで作ってくれたので嬉しかったです！

ホームステイ3日目は放課後に Tower Hill（タワーヒル州立鳥獣保護区、Tower Hill）というところに行きました。そこにいる動物は野生でコアラやエミューも間近で見ることができました！でも車の近くを歩いていて襲われそうでちょっと怖かったです。

オーストラリアの歴史やペンギンは犬に守られているという大事な話を聞いて嬉しかったです。Tower Hill の次は海に行きました。次の日は市長に挨拶をしに行きました。スイーツなどを用意してくれてたけど、緊張で全然食べられませんでした。話す時、市長が笑ってくれていたの、良い回答が出来た訳ではないけれど、会話をする事ができました。こういう時に少しでも多く喋れるようになりたいなと思いました。

次の日は The Twelve Apostles（12人の使徒、The Twelve Apostles）という所に連れていってもらいました。

行くまでの道のりで農地が広大で進んでも、進んでも、どこまでも緑で広さを実感しました。石灰岩で出来た海食柱がある場所で、The Twelve Apostles というから十二柱あるかと思いきや、波の影響で八柱しか残っていませんでした。ですがひとつひとつが大きくて見応えがあって綺麗でした。

6日目は、ホストファミリーと過ごす日で動物園に行きました！そこにはヘビ、鳥、カンガルー、コアラ、ウォンバットと沢山の動物がいました。ヘビを触ったり、カンガルーに餌をあげたり、初めての事を沢山経験しました。最初は噛まれそうで怖かったけど、あげてみると普通に食べてくれて挑戦して良かったです！コアラに関しては遠くから眺めるしかできないと思っていたので、触れる位の距離で見れて感動しました。

この日の夜はバースディパーティを盛大に開催していました！

日本のイメージだと子どもの頃しかやらないイメージだったけど、大人になってもパーティをしていて素敵だなって思いました。そこでもまた、いとこやおじいちゃん、おばあちゃんと交流出来て、オーストラリアの人達は言葉でなく、ハグなどして、愛も伝えていて、とても素敵だなと思いました☆

ホストファミリーと過ごしたかけがいのない時間



7日目はホストファミリーと過ごす最後の日。

この日は滝に連れていってもらいました！「最近の水が少ないんだ」って言うんだけど、十分に迫力があって、丁度夕日も出て最高でした！

夜ご飯の後は、マックに皆で行ってソフトクリームを食べました！キャラメルが沢山かかっていて甘くて美味しかったです。

その後、海に行きました！星もとても綺麗でふたつも見れて最高でした！毎日色々なところに連れていってもらい毎日が新しいことばかりでした！

ホストファミリーと過ごしたかけがいのない時間



思い出

報告者 鈴木 詩季

8月17日金曜日

学校が終わって、放課後ホストファミリーの子どもとその友達10人位で、レストランに行きました。その10人は学校でも優しくしてくれて嬉しかったです。

レストランで驚いたのは、子どもは店員さんや料理の待つ間、ピザ生地で遊んでいいのです。ペンで色を着けたりしていて、驚きました
他にもパスタは麺を選べたり、量はとても多く驚きました。

子供の頃の夢



やっと笑えたあの日



8月16日土曜日

ホストファミリーと過ごす日でした。

ホストファミリーは、車で1時間半かかる、遠いところへ連れて行ってくださいました。

場所は、グレードオーシャンロードの12人の使徒を見に行きました。とても大きい岩が10個ぐらいありました。岩から少し遠くの橋から見ましたが、迫力を感じました。

そして、その日は雨が降っていましたが、見る時は晴れていて、岩と虹が見えました。とても美しかったです。その後はTIMBOOMという商店街に行き、オージービーフのパイを食べました。とても美味しかったです。

そして近くにあるアイスクリーム屋に連れて行ってくださいました。アイスクリーム屋さんには、様々な味があり、とても悩みました(笑) スイカやライム、ラズベリー、キャラメル?、ナッツなど…。私はライムとラズベリーにしました。とても大きくとても美味しかったです。最後にウォーナンブル市のKマートに連れて行ってくださいました。様々な日常雑貨など私の目を輝かせるものばかりでした。とても楽しい1日でした。

冬のひとくち



曇天のち12使徒



思い出

報告者 田中 二虹

オーストラリアでの10日間は本当に楽しくて私にとって非日常的な生活でした。まず、8月11日の1日目は緊張していました。会話できるかな?とか迷惑かけないかなとか不安でした。そのため飛行機内では1時間しか寝ることができませんでした。

約10時間のフライトを終え12日の8時頃にメルボルン空港に着いた時は不安、緊張の思いから楽しみという気持ちに変わっていました。スカイバスに乗りサザンクロス駅に移動しました。サザンクロス駅の周りは高層ビルが多く三浦市にはない本当に綺麗な町でした。異世界に来たような気持ちでした。サザンクロス駅からウォーナンブール駅に向う列車が出発するまで3~4時間あったため散策する時間がありました。まず、バットマンパークに向いメルボルンの町を360° 見ることができました。次にロイヤル・アーケードという小さめのショッピングモールへ向かいました。その途中気になったお店に寄ることができました。UGGのお店やすごい好きな服屋さんなどに行きました。とても可愛かったです。

やっとロイヤル・アーケードに着いたら、雰囲気すごいオシャレでした。段々と時間が迫ってきてサザンクロス駅に戻りました。昼食を食べていなかったのでサザンクロス駅にある手巻き寿司を食べました。

ホームステイ 初めて撮った写真



列車に乗りウォーナンブール駅に着いたらホストファミリーが迎えに来てくれました。とてもドキドキしました。ホストファミリーの家に向ってる時に自分から何も話せなくて少し後悔しています。

まず、家が想像以上に大きくて驚きました。ホストファミリーに飛行機で1時間しか寝てないと伝えたら、貸してくれた部屋でゆっくりして、リラックスしてね、と言ってくれてとても優しかったことに私はとても嬉しかったです。

そして日本のお土産を渡したらとても嬉しそうでした。

ホームステイ1日目の夕飯は、オーストラリアの食べ物でミートパイとソーセージパイをご馳走してくれました。とても美味しかったです。

ホームステイ2日目からブラウワーカレッジに3日間通いました。ものすごく緊張しました。授業についていけるのか不安でしたが、いつでもホストファミリーがついてきてくれて安心できました。そしてブラウワーカレッジの先生とすれ違ったら必ず挨拶してくれてとても嬉しかったです。

派遣生と受けた木工の授業はとても楽しかったです。木工の先生はとても明るい人で気軽に話すことができました。1日の授業が終わり放課後になると、ホストファミリーのミュージカルを見ました。ミュージカルの発表会が1週間後らしく監督が熱意にあふれていました。ミュージカルが終わった後、ホストファミリーのダンスのレッスンを見る事ができました。すごくダンスが上手で感激しました。それに一緒にダンスのレッスンを受けているお友達が全員喋りかけてくれて、とても楽しかったし嬉しかったです。2日目終了、とても充実した一日でした。

ホームステイ3日目は、1時間目～4時間目まで派遣生と一緒にでした。1、2時間目は日本語の授業で色々なゲームをして楽しかったです。3、4時間目は体育の授業はクイズラリーをしました。学校を走り回り少し疲れました。5、6時間目はホストファミリーの子とメディアの授業を受けました。先生が明るい人で話しかけてくれて嬉しかったです。学校が終わりバスで帰宅しました。家に戻りドライブに連れて行ってくれました。とても楽しかったです。夕飯は一緒におにぎりを作ってとても喜んでくれました。嬉しかったです。

ホームステイ4日目は、ブラウワーカレッジに通う最終日でした。1、2時間目は心理学の授業が難しく理解する事ができませんでした。ホストファミリーがゆっくり説明してくれました。3時間目は縫い物の授業でした。課題が終わっているのか1時間ずっとパソコンでゲームをしていて驚きました。4、5、6時間目は派遣生と車で移動し、ウォーナンブルの市長に会いました。とても緊張しました。ブラウワーカレッジに通った3日間はすごく印象に残っていて、とても楽しい日々でした！！

ホームステイ5日目は、土曜日で色々な場所に連れて行ってくれました。ホストファミリーの家から1～2時間、ドライブしました。家を出た時は雨が降っていましたが、クーリーマンゲルに着いた頃は晴天でした。チョコレート工場でホットココアを飲みました。体が温まり甘くてとても美味しかったです。次にチーズの試食をする事が出来ました。約15種類のチーズを試食する機会なんて普段できない体験ができてとても楽しかったです。その中で3種類を買って、最終日に食べました。

ポートキャンベル国立公園



たくさん喋ったホストシスターズ



テラスでジェラート



また、ドライブをしてポート・キャンベル・ナショナル・パークに行き、石灰岩で出来ている大きい岩を見ました。観光客がたくさんいました。次にティムブーンで大きいアイスクリームを食べました。とても美味しかったのに大きすぎて残してしまいました。

それを飼い犬のポピーにあげていて驚きました。

午前中だけでも充実した日でした。午後は家に帰りゆっくり映画を見る事ができました。夕食はホストファミリーのお勧めのタイ料理屋さんに行きました。

とても美味しくて隣に座っていたおじいさんにお勧めしてしまいました。

野生のコアラ

ホームステイ6日目は、お別れパーティーの前にタワーヒルに連れて行ってもらいました。初めて間近でコアラを見れました。寝ている姿と移動して木に登ってる姿を見れました。

本当に可愛かったです。

お別れパーティーはスピーチをしなくてはいけなくて緊張していました。スピーチは、発音は悪いし人の目を見ることができなかったのにホストファミリーは上手だったとか完璧とか、とても褒めてくれて嬉しかったです。

お別れパーティーが終わった後、スーパーに行きました。お土産としてお菓子を買いたくて手に持っていたらカゴに入れてくれ会計の時、別々で自分で払う為に取り出したら「あなたはゲストだから払わなくていいよ」と言われて嬉しかったです。次の日にお別れする事を考えたら泣きそうでした。

家に帰り、パッキングをしてる時はあっという間で悲しかったです。

ホームステイ最終日は、前日に書いた手紙を渡したら喜んでくれました。お母さんは仕事できちんとしたお別れができなくて残念でしたが、お母さん以外のホストファミリーが送ってくれました。最後の写真を撮り、お別れができて良かったです。

おすすめの料理屋さん



ホームステイ最終日のお昼



お菓子詰め放題



思い出

報告者 内藤 己陽

この姉妹都市交流で初めてホストファミリーと日常を過ごす事を体験しました。私は最初、ホームステイは1回も会った事のない人達と過ごす事がすごく怖かったです。その為、ウォーナンブール駅に迎えに来てくれて、家まで向かっている時にすごく緊張して、全然話せませんでした。

さらに英語が全然理解できなかったけれど、ホストマザーやホストシスターが翻訳を使ってくれたりして、だんだんと馴染んでいく事が出来ました。

ホストファミリーの家で過ごす1日目は、無事に着いた安心感と長距離フライトなどの疲れや、初めて会う家族との緊張もあり、夜はぐっすり眠る事ができました。

2日目は、学校があり学校でも沢山の子が喋りかけてきてくれたりして、すごく楽しかったです。やっと慣れてきた学校も4日目で終わりで寂しかったです。学校が終わった後は、犬の散歩で海に連れて行ってくれました。その後は日本のお菓子を食べたりして緊張もほどけてきて、リラックス出来ました。

アイス屋



ホストファミリーと初めて過ごす土曜日は動物園に連れて行ってくれました。日本と違ってそこら中にカンガルーがいたり、コアラもいてとても可愛くて、楽しかったです。

その後は左の写真のアイス屋さんにも行きました。ジェラートみたいなアイスで、しかも大きくてとても美味しかったです。

初めて見た野生のコアラ



土曜日の夜は、ホストシスターと一緒に映画を見ました。字幕を日本語でつけてくれて、すごく優しくて嬉しかったです。

日曜日が一番印象に残った日でした。なぜなら、その日は私の誕生日で朝から家族全員が「HAPPY BIRTHDAY!!」と言ってくれて、さらにプレゼントまでくれて、本当に幸せな誕生日になりました。お昼からはボウリングに連れて行ってくれました。ホストマザーとシスターがとても上手で接戦になり、見ていてとても楽しかったです。

午後は、お別れ会をやり、最後の日って事を実感してすごく悲しかったです。

しかし、夜にはケーキを作ってお祝いしてくれてさらに、最高の思い出になりました。その後はマリオカートをして遊んで、ペットとも遊んで、ホストファミリーと過ごす最後の夜を過ごしました。

初めてのホームステイの経験をすごく良いものにしてくれた家族全員が優しくて、最高でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです！！

ホストファミリーとボウリング



思い出

報告者 長嶋 琉央

私は、今回の交流で、ホストファミリーと過ごした時間や、みんなとメルボルン観光が忘れられないものとなりました。最初は、言葉が通じるか不安でしたがホストマザーが優しく接してくれて、細かいところまで気にかけてくれたおかげで打ち解ける事ができました。

夕食の時には、今日1日に起きたことなど拙い英語でしたが、楽しく会話する事が出来ました。まるで本当の家族のように温かく迎えてくれたホストファミリーには感謝しかありません。一緒にテレビを見たり、ボードゲームをしたり、とても楽しかったです。

また、派遣団のみんなと一緒にメルボルンに行った際にはセントポール大聖堂の荘厳な雰囲気感動しました。また、在メルボルン総領事館に訪問した際に、古谷さんから外交に係わる興味深い話を聞いて、思わずたくさん質問してしまいました。

セントポールズ大聖堂



総領事と懇親会



ビクトリア州立図書館では、日本の書物や風景画にまつわる展示があり、日本の文化が海外にも届いている事を実感できてとても嬉しかったです。

この10日間を通してとても貴重な体験ができました。計画していただいた方、この活動を支援していただいた方々には感謝しかありません。

ビクトリア州立図書館



思い出

報告者 星野 仁志

このホームステイで特に印象に残っている出来事が2つあります。

まず一つ目は、ホストファミリー達との活動です。ホストファミリーはとても活動的で、バスケットボールが得意でした。学校初日の朝、ホストファミリーが学校にあるバスケットコートに連れて行ってきて、一緒にバスケットをしました。朝は自分はバスケットに参加せず、ホストファミリーがバスケットをしている様子を見ていましたが、次第に自分も誘われるようになり、みんなと一緒にプレーするようになりました。最初はバスケット経験がなかったので不安でしたが、ホストファミリーや友達が丁寧に教えてくれて、楽しく出来ました。次の日も、またみんなでバレーをしたり、家にあるバスケットゴールでバスケットをしました。オーストラリアで、こんなにバスケットなどのスポーツをするとは思っていませんでしたが、毎日が新鮮で、とても楽しい経験でした。ホストファミリーや友達は、どんな時も優しく分かりやすく接してくれたので、安心して活動に参加できました。

もう一つは、お好み焼きを振る舞った事です。自分の研究課題は食文化の違いで、お好み焼きをホストファミリーに作らせてもらいました。最初は上手く出来るか心配でしたが、ホストファミリーも手伝ってくれて安心しながら作る事が出来ました。そして、焼き上がったお好み焼きをみんなで食べました。ホストファミリーは「I want to eat first !」と言ってくれたり、「amazing」や「delicious」と褒めてくれたりして、とても嬉しかったです。自分でも今まで作ったお好み焼きの中で一番上手く出来たと思いました。

最高のバースデイパーティ



ホストファミリーとの初めてのディナー



このホームステイを通して一番感じた事は、人の温かさです。ほぼ初めての海外という状況で、英語が上手く話せない自分にも、ホストファミリーや周りの人達が、ゆっくり話しかけてくれたり、分かりやすく説明してくれました。こういう優しさが国全体にあるのだと強く感じました。自分もこれからもっと人に優しく接していきたいと思います。

タワーヒルでホストファミリーと



思い出 国際交流の楽しさ

報告者 石橋 陽花里

私がオーストラリア留学をして1番思い出に残っているのは、ホストファミリーや学生たちと過ごした時間です。

私のホストファミリーはとても優しく、愛のある家庭でした。

私は英語を喋る事に自信がなく、とても緊張していましたが、みんな優しく話しかけてくれたり、翻訳機を使ってくれたりもしてくれました。

マザーには英語の出来をととても褒めてもらい、完璧じゃない英語でもいいんだ！

何を伝えたいかを表す事が大事なんだと学ばせてくれて、自信がつき、留学中とても楽しく過ごせました。

学校では、友達がたくさん来て、お昼休みなどずっとその子達と話をしたり、お菓子を分け合いました。

週末のホストファミリーと過ごす時間には、動物園に行きました。そこで偶然にも派遣生の2人に会い一緒にコアラやカンガルーなどオーストラリアの動物たちに触れ合いました。その後、アイスクリーム屋に行ったり、お菓子屋に行って、日本には無い珍しいお菓子を買って食べるなどして、とても楽しい時間を過ごせました。

今回の派遣で、英語を話して、海外の人と交流する楽しさ・日本とはまた違った教育法や生活などを経験させてもらったので、この派遣で感じたこと学んだ事を忘れずに自分の将来に活かしていきたいと思いました。

ブラウワーカレッジで交流



ホストファミリーとボウリング



3家族で Wild Life Park



思い出 価値観の変わった日々

報告者 山森 史稀

今回の滞在で一番の思い出は、やはりホストファミリーと過ごした時間です。学校が終わるとホストファミリーと一緒に家に帰り、家に着くと「ゲームしよう！」と声をかけてくれて、よく一緒にテレビゲームをしました。ご飯を食べた後は、リビングで洋画を見ながら会話をしたりして、自然と英語に触れる事ができたのも印象的でした。何気ない日常の中に、たくさんの学びと楽しさが詰まっていたように感じます。

休日にはウォーナンブール市内の観光地に連れて行ってくださり、どこに行っても「お腹すいてない？」「疲れてない？」と声をかけてくれました。体調の事を心配してくれたり、こちらの気持ちに寄り添ってくれるその優しさが、今でも脳裏に焼きついています。言葉に自信がなくても、表情や行動で気持ちが伝わる事を実感しました。

家族の一員のように接してくれたことが、本当に嬉しく、安心感のある日々でした。

今までは「自分は日本で学び、日本で働き、日本で生きていく」と自然に思っていました。でも今回の経験を通して、留学したり、海外で生活したり、働いたりする事も一つの選択肢なのだと感じました。外の世界を知る事で、自分の視野が広がり、将来の可能性にも気づくことができたと思います。そして、それは「自分がどうしたいのか」を改めて考えるきっかけにもなりました。

命と大地のぬくもり

言葉を越えたつながり



また、日本人は「愛してる」や「ありがとう」といった感情を言葉で伝える事に、どこか照れや抵抗を感じる文化があると思います。でもオーストラリアでは、家族や友人の間で「Thank you」や「I love you」という言葉を自然に伝え合っていて、それがとても素敵だと感じました。言葉にすることで、自分も相手も笑顔になれる。そんな文化の中で生活するうちに、私も少しずつ素直に気持ちを表現できるようになっていった気がします。最初は勇気がいりましたが、口に出す事で関係がよりあたたかくなるのを感じました。

このホームステイの体験は、単なる海外滞在ではなく、自分の考え方や生き方にまで影響を与えてくれた大切な時間でした。思い出を振り返ると、楽しかった事だけでなく、不安だった事、戸惑った事さえも、今ではかけがえのない経験です。これからもこの経験を忘れずに、自分の可能性を信じて、前向きに進んでいきたいと思います。

私を変えたホームステイ



第二のふるさと





令和7年度三浦市青少年派遣団活動報告書

令和8年2月発行

編集・発行 三浦市青少年姉妹都市国際交流実行委員会
三浦市教育委員会

事務局 神奈川県三浦市城山町1-1

三浦市教育委員会 教育部 青少年教育課

☎046-882-1111 内線413・418

✉kyoui0601@city.miura.kanagawa.jp